

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA45N054		化学史(History of Chemistry)					全学共通科目 自然・科学	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1・2・3・4	教・経・福	前期	月2	氏名 檜垣 勇次(理工) E-mail y-higaki@oita-u.ac.jp 内線 7895										
授業の概要	自然科学は自然界の諸現象とそれに関わる物質について探求する学問であり、「化学」は物質の構造、性質および反応を究明する自然科学分野である。「化学」は、物質探求の純粋科学にとどまらず、物質に関わる物理/化学の応用による社会/産業への貢献が見込まれる学問体系である。このことから、文系専攻、理系専攻に関らず、大学人の一般教養として、「化学」の歴史認識と、現代物質観の理解は重要である。本授業では、古代から現代に至る物質観の変遷、物質を構成する原子や分子についての概念、現代における物質化学のトピックスについて講義し、グループワークとプレゼンテーションを経て、身の回りの物質や現象を化学の視点で解釈する素養の習得を目指す。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 化学史と現代の物質観について説明できる。																
目標2 原子/分子の視点で物質/現象を解釈できる。																
目標3 他者との協働で課題を設定して調査できる。																
目標4 調査した内容を論理的に述べるができる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 授業のガイダンス：資料の配付、授業内容の説明、参考図書の紹介																
2 酸素の発見、酸/酸化の定義																
3 酸/塩基																
4 原子と分子																
5 放射線、放射能、原子力																
6 放射線被曝、放射線利用																
7 弱い力(水の科学)																
8 物質化学1：物質化学のトピックスを講義																
9 物質化学2：物質化学のトピックスを講義																
10 物質化学3：物質化学のトピックスを講義																
11 物質化学4：物質化学のトピックスを講義																
12 グループワーク：「化学」の視点で物質/現象を説明する。																
13 グループワーク：「化学」の視点で物質/現象を説明する。																
14 グループワーク：プレゼンテーション																
15 総まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	ミニットペーパー、グループ・ペアでの共同作業、ディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答				工夫	図表/画像中心の講義資料の活用、動画の活用									
	B:意見の表現・交換					その										
	C:応用志向					他										
	D:知識の活用・創造					の										
時間外学習の内容と時間の目安	準備	参考図書やインターネットを利用して、必要に応じて予習する(15h)。課題についての考察、プレゼンテーション資料の作成など、グループワークの準備を学修する(5h)。														
	事後	授業で学習した内容について、配布資料、参考文献を参考に復習する(15h)。課題について考察し、レポートを作成する(10h)。														
教科書	教科書を指定しない。															
参考書	参考書を指定しない。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	ミニットペーパー	80%														
	プレゼンテーション	10%														
	最終課題	10%														
注意事項																
備考																
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	民間企業（総合化学メーカー）で5年間勤務した。
実務経験を いかした教 育内容	産業の視点から化学現象を解説することで、実社会で活かせる知識を提供する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
AA42G114		福祉テクノロジー入門(Technology of Helping People with Special Needs) *大分を創る科目					全学共通科目 福祉・地域	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・理工・福	前期	火1	氏名 池内 秀隆(医) E-mail hikeuchi@oita-u.ac.jp 内線 7944						
授業の概要	高齢社会の到来とともに、それらの問題を解決する取り組みが重要性を増し注目されています。この講義では福祉に関する工学技術・電子情報製品・機械製品に関する話題を提供し、これらへの理解を深めるとともに、福祉分野における機器利用・工学的手法の役割や重要性を認識することをねらいとしています。バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉を見かけることが増えました。これらの考え方や身近に応用されている福祉の工学技術を紹介し理解を深めます。また、このような分野の話題を理解するために必要な用語や分野の内容、研究概要なども紹介します。さらに、障害者や高齢者の生活を支援する機器や支援技術(Assistive Technology)について学びます。これらを普及していくために産業との関連や制度・政策に関連する項目も紹介します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	福祉とテクノロジーに関する正しい認識を判断できる。											
目標2	障害や高齢に対する福祉テクノロジーに関する説明に対し正しい語句を示すことができる。											
目標3	福祉機器に関する特徴や仕組み、用途などを述べるができる。											
目標4	福祉テクノロジーに関する誤解や問題点を述べ、考察することができる。											
目標5	各授業での説明について簡潔に要点をまとめることができる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	障害とは何か、障害の種類											
2	障害に対する誤解、福祉関連工学の歴史											
3	福祉工学とはなにか、バリアフリー											
4	バリアフリーにおける問題点等、ユニバーサルデザイン											
5	共用品、身近な福祉関連技術のメリット・デメリット											
6	情報機器のアクセシビリティ											
7	障害と福祉機器											
8	福祉機器の課題と障害の詳細											
9	視覚障害に関する福祉関連技術											
10	聴覚障害に関する福祉関連技術											
11	言語障害に関する福祉関連技術、運動障害に関する福祉関連技術(杖・歩行器、車いす)											
12	運動障害に関する福祉関連技術(車いす、福祉車両)											
13	運動障害に関する福祉関連技術(介護リフト、移乗機器、昇降装置、コミュニケーション機器)											
14	運動障害に関する福祉関連技術(介護ベット、自助具)、ロボット											
15	知的障害に関する福祉支援技術、講義のまとめ											
ラック ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	1.最終回を除き、毎回の授業で資料兼ノート用紙を提出する。2.第1回を除き、前回の授業で配布された資料を基に各学生が下調べをしてくる。3.第1回および最終回を除き、前回の授業の振り返りに基づき、質問や意見を発言する(一授業あたり2,3名)。					工 夫	そ の 他 の				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	配付された資料を読み、下調べをする。(1h)										
	事後 学修	授業を復習し、疑問点や考察・意見をまとめる。(1h)										
教科書	資料兼ノート用紙を配布。											
参考書	・基礎 福祉工学, 手島教之, 米本清, 相川孝訓, 相良二郎, 糟谷佐紀, コロナ社 ・バリアフリーのための福祉技術入門、足立芳寛、後藤芳一、オーム社 ・福祉情報技術1、e-AT利用促進協会、ローカス											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験	90%										
	ノート用紙提出	10%										
注意事項	平成27年度までの「福祉と工学技術」を不合格となった者で、同科目の履修が必要な者は本科目で読み替えます。「福祉と工学技術」を履修(単位取得)した者は、受講できません。重複履修となりますので、注意してください。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
AA45N011		生命観の変遷(History of Biological Science)					全学共通科目 自然・科学	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・理工・福	前期	火1	氏名 牧野 治敏(教マ) E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644											
授業の概要	現代の生命科学が成立する過程について、古代ギリシャから現代までを各時代の社会的、文化的背景を踏まえながらとります。これらの過程を通して一義的に解釈されがちな現代の科学にも多様な解釈の仕方、捉え方があり、科学には社会的な影響が及んでいることを学び、将来像を考察します。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 自然科学における「パラダイムシフト」の概念を説明できる。																	
目標2 ギリシャ時代、中世、近世の生命観を簡潔に説明できる。																	
目標3 ダーウィンの進化論と、それ以前の進化論との違いを示すことができる。																	
目標4 生物多様性が社会的に必要な理由を自分の意見をもとに説明できる。																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 「いのち」を考えることの意味(本授業の概要)																	
2 古代ギリシャの生命観1:祈禱から治療へ(ヒポクラテスの考え方)																	
3 古代ギリシャの生命観2:生き物の観察と記述(アリストテレスによる記載)																	
4 古代ギリシャ・古代ローマの集大成:ガレノスの実践とその伝承																	
5 中東の国々の自然科学と医学:ギリシャ・ローマ文化の継承と発展																	
6 新しい自然観:暗黒時代からルネサンスへ(画家による描写)																	
7 実践的な描写に基づく解剖学の始まり:ベサリウスによる表現																	
8 機械論的な生理学:血液循環を導いたハーヴィの考え方																	
9 後成説と前成説:生きもの原型はどこにあるのか(発生学の歴史)																	
10 自然発生説の否定:生き物はどこから生じるのか(パスツールによる証明)																	
11 生物多様性の解釈:ダーウィン以前の進化論(ビュフォン、ラマルク)																	
12 進化論:生命観の大転換(ダーウィン、ウォレスの進化論)																	
13 人類の進化:生物としてのヒトの位置づけと優生学																	
14 分子生物学の成立:分子による生命現象の記述																	
15 「生物の多様性」という考え方:個体差、性差を考える																	
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認					授業内容の理解を促進するために授業の途中でクイズを出す。					工 夫 そ の 他 の						
B:意見の表現・交換																	
C:応用志向																	
D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	Moodleに示された、事項の調べ学習(8h)															
	事後学修	参考図書を読む。毎回の授業に関連した事項について、復習課題をMoodle上へ提出する。(8h)															
教科書	定めない。																
参考書	・近代科学の源流(伊東俊太郎)中公文庫 2007・まんが医学の歴史(茨木保)医学書院 2008・アヴィセンナ「医学典範」日本語訳(檜学他)第三書館 2010・裸のサル(デズモンド・モリス)角川文庫 1999(絶版)・医学の歴史(小川鼎三)中公新書 1964・生物学の歴史(チャールズ・シンガー;西村顕治訳)時空出版 1999(絶版)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	Moodleによる課題提出	45%															
	期末試験	55%															
注意事項	提示資料には動物等の解剖図、写真等を使う。常識の範囲のものであるが、苦手な人は授業選択の際に注意すること。授業で提示するスライドは事前にMoodle上に掲載するので、必要な人は各自でダウンロードや印刷してください。																
備考	授業で提示するスライドはLMS(Moodle)上に掲載する。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA41N111	コンピュータ科学入門(Introduction to Computer Science)					全学共通科目 導入・転換	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水1	氏名 中島 誠(理工) E-mail nakasima@oita-u.ac.jp(中島) 内線 7884(中島)						
授業の概要	我々の生活にはコンピュータが不可欠となっている。インターネット上での情報のやりとりや、音声や画像などの処理が手のひらの上のコンピュータで行われ、家庭内でも知能ロボットが使われ始めている。また、蓄積された情報の中から有用な情報を得る技術は個人だけでなく企業経営における意思決定や社会システムの効率化などに応用されている。この講義では、背景にあるコンピュータの発展の歴史と、その応用を支える基本技術を学習する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	コンピュータに興味を持ち、その発展の歴史を説明できる。											
目標2	コンピュータ科学とその応用分野との関係を説明できる。											
目標3	コンピュータの社会における基本的な活用法について説明できる。											
目標4	コンピュータ社会が抱える課題に関心を持ち、自分自身の意見を述べるができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	コンピュータの歴史と基本的な構成を概観する。											
2	ハードウェア・ソフトウェアの役割と設計技術を紹介する。											
3	インターネットの歴史と基本技術を紹介する。											
4	WWW上での情報提供と取得のための技術を紹介する。											
5	情報検索の歴史とその基本的技術を紹介する。											
6	コンピュータ上での音の表現方法について概観する。											
7	音メディア処理の基本技術を紹介する。											
8	コンピュータ上での画像データの表現方法について概観する。											
9	画像データ処理の基本技術を紹介する。											
10	知能ロボットとそれを実現するための基本技術を紹介する。											
11	仮想現実や拡張現実を実現するための基本技術を紹介する。											
12	ソフトウェアの特徴とその設計方法を紹介する。											
13	プログラムが動く仕組みとプログラミングの基本的な考え方を紹介する。											
14	自然科学へのコンピュータの活用方法について概観する。											
15	人工知能に関する基本技術を紹介する。											
ラ ア ー ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	トピックごとに、理解度の確認あるいは、受講生自身の意見を問うレポート課題や小テスト等を出题する。宿題として受講生自身の情報収集による事前の下調べを科す場合もある。				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	レポート課題や小テスト等(各担当教員の指示)の内容により、図書館等での事前の下調べ(15h)が必要となる場合もある。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(30h)										
教科書	教科書は用いない。											
参考書	適宜、参考資料を配付する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート課題	70%										
	小テスト	30%										
注意事項	工学部知能情報システム工学科ならびに理工学部共創理工学科知能情報システムコースの学生は履修不可。すでに全学共通科目の「情報科学の世界」を修得した学生は履修不可。											
備考	高見利也(理工), 古家賢一(理工), 大竹哲史(理工), 紙名哲生(理工), 行天啓二(理工), 池部実(理工), 賀川経夫(理工), 佐藤慶三(理工)も合わせて担当する。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	中島誠（開発者），古家賢一（研究員），紙名哲生（研究員），行天啓二（システムエンジニア），佐藤慶三（システムエンジニア）
実務経験を いかした教 育内容	企業等で使われて来たコンピュータの歴史，システム開発，情報収集，研究開発がどのように行われるかを，経験をもとに紹介しつつ，実用的な技術についても説明する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA42G013	自然体験活動の理論と実践(A theory and practice to recognize nature)					全学共通科目 福祉・地域	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・ 理工・福	前期/後 期	水1	氏名 牧野 治敏(教マ) E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644									
授業の概要	自然認識の過程を実践的に学ぶ授業です。自然認識の深まり、広がり自然科学の理解を強固すると同時に、獲得した知識や技能が自然への知覚を広げ深めるという相互作用を体験的に学習します。また、自分自身も自然の一部であるとの立場でSDGsを考察します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	身のまわりの自然を深く感じ取る手法を5つ以上修得している。														
目標2	多様な見方、考え方、感じ方を受容した応答や意思表示ができる。														
目標3	効果的な自然体験指導を理論に基づいて説明できる。														
目標4	SDGsのいくつかを自分自身との関わりで説明できる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	自然体験とは(授業の概要説明。直接体験と間接体験について)														
2	自然に対する既存知識の確認(初歩的な自然認識について)														
3	自然に目を向けるための活動1(身のまわりの自然に興味を持たせる)														
4	「活動1」の解説(教えるのではなく気づかせるための工夫)														
5	自然に目を向けるための活動2(五感を使った気づき)														
6	「活動2」の解説(感じ方の個人差を活用した指導法)														
7	危機管理のためのブレインストーミングと野外活動時の危機管理について														
8	SDGsの概要と環境教育														
9	グループに分かれて、指導の実践と相互評価(その1)														
10	指導の振り返りと課題の解決(その1)														
11	グループに分かれて、指導の実践と相互評価(その2)														
12	指導の振り返りと課題の解決(その2)														
13	環境保全に関する検討会														
14	より深く自然を体験する活動(自然との一体感)														
15	この授業による認知的変容を描画によりまとめる活動														
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ エ グ レ ッ プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	・直接に自然を体験し、その体験を言葉や絵で表現し、受講生間で共有する。 ・他人の考え方や感じ方を受容し、自分との共通点、相違点を明確化することで自己認識を深化させる。				工 夫 そ の 他 の									
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	教科書の必要箇所を読み、シェアリングネイチャーの理念を理解する。(8h)													
	事後 学修	実践したアクティビティの要点を、教科書から抽出しまとめる。自然との一体感を得るためのエクササイズをする。実践実習のための「指導計画書」を作成し、予行演習をする。(8h)													
教科書	『シェアリングネイチャー～自然のよここびをわかちあおう～』ジョセフ・コーネル著 日本シェアリングネイチャー協会発行(2012年) 2000円(税別)														
参考書	Joseph Bharat Cornell 著「SHARING NATURE Nature Awareness Activities for All Ages」Crystal Clarity Publishers, 2015														
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	ミニッツペーパー	30%													
	課題提出	20%													
	実技	30%													
	実践計画書の提出	20%													
	実習については、翌週以降の授業で詳しく振り返りをするので、実習1回の欠席は授業2回分の不参加に相当します。注意してください。														
注意事項	受講生を20人までに制限します。授業の順序は天候等により変更する場合があります。 パンダナと敷物は必須です。雨中での活動がしやすいように、雨合羽などの雨具が必須です(傘は不適)。														
備考	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会公認の「ネイチャーゲームリーダー」の資格が取得できる授業です。全課程履修、及び検定試験の合格が条件です。 (登録料と1年目の年会費が別途必要ですが、それ以降の在学中の年会費は免除されます)														
リンク	ネイチャーゲームのビデオ(日本シェアリングネイチャー協会ホームページ) URL https://www.naturegame.or.jp/														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA42G113		創造的思考法(Creative Thinking Skills) *大分を創る科目					全学共通科目 福祉・地域	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水1	氏名 鈴木 雄清 (IR・教マ) E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069										
授業の概要	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。本科目で扱う内容は、企画、会議、レポート・論文作成、プレゼンテーション、読書、人材育成、質問紙法による自由記述や口頭による自由回答の分析など、様々な場面で応用できる。大学生生活や大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイデアを創出できる。																
目標2 ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。																
目標3 ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。																
目標4 親和図法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデアを創出できる。																
目標5 大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出できる。																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習：「しあわせ」マインドマップを作成する。																
2 マインドマップとは、Xmindの使い方：Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。																
3 自己分析マインドマップ：自分自身についてのマインドマップを作成する。																
4 読書マインドマップ：1冊の本からマインドマップを作成する。																
5 マインドマップのまとめ【課題1】																
6 【ブロック2】ブレインストーミング(1)：グループで大学生生活に関する順番ブレインストーミングをする。【課題2】																
7 ブレインストーミング(2)：グループで大分の地域活性化に関する順番ブレインストーミングをする。【課題3】																
8 【ブロック3】親和図法－紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり：ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。																
9 親和図法－グループのグループ化・空間配置：A型図解法の空間配置をする。																
10 親和図法－関係線の描画：A型図解法を完成させる。【課題4】																
11 親和図法－B型文章化：B型文章化で発想する。【課題5】																
12 【ブロック4】親和図法(2)－A型図解法：大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を図解化する。																
13 親和図法(2)－A型図解法(2)：A型図解法を完成させる。【課題6】																
14 親和図法(2)－B型文章化：B型文章化で発想する。【課題7】																
15 総まとめと最終課題【課題8】																
ラック ニ イ ゲ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	演習、小テスト、チェックリスト・ルーブリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、省察ミニッツペーパー、マインドマップ、ブレインストーミング、親和図(KJ)法	工 夫 そ の 他 の	アイスブレイク、動画の活用、LMS(Moodle)の活用、タスクは各自のペースで実施												
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(8h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、親和図法A型図解法(20h)、親和図法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。														
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。															
参考書	川喜田二郎『続・発想法 KJ法の展開と応用(中公新書 210)』中央公論新社、1970年、ISBN9784121002105 トニーバザン・バリーバザン(著)、近田美季子(翻訳)『新版ザ・マインドマップ 脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166															
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	マインドマップ【課題1】	25%														
	小テスト	5%														
	ブレインストーミング【課題2・3】	10%														
	親和図法A型図解法【課題4・6】	30%														
	親和図法B型文章化【課題5・7】	20%														
	最終課題【課題8】	10%														
すべての小テストおよびすべての課題の合格を単位取得の条件とする。																
注意事項	Mac OS及びLinux OSには対応していないソフトウェアを使用するため、Windows OSが搭載されたコンピュータが必要である。															
備考																
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA43L312	大分美術史概論(Introduction to the Art History of Oita)					全学共通科目 文化・国際	対面										
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水2	氏名 田中 修二(教)											
E-mail tnkshj@oita-u.ac.jp 内線 7596																	
授業の概要	日本美術史についての基礎的な知識を学びつつ、大分における美術の歴史的な流れを、先史時代から現代にいたるまで概観する。私たちの身近にある豊かな造形表現に目を向けることで、美術に親しむきっかけを作るとともに、地域への視点を自ら育み、歴史を語るといふ行為の構造にも関心を持ってもらえることを目指す。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)										
目標1	日本および大分の美術史などを適切にわかりやすく紹介できる。						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	芸術表現を通して地域の特性・課題等を見出し、適切に説明できる。																
目標3	歴史を語ることについての問題意識を持ってレポート等が書ける。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	オリエンテーション：「美術史」の性格																
2	「大分」とはなにか：「美術史」の視座																
3	石の造形と土の造形：先史時代～																
4	古墳と石人：古墳時代																
5	仏教の伝来と浸透：飛鳥～奈良時代																
6	石仏：平安～鎌倉時代																
7	雪舟と大友氏の大分：室町時代																
8	茶の湯の世界：室町～安土桃山時代																
9	南蛮美術：安土桃山時代～江戸初期																
10	文化のネットワーク：江戸時代																
11	田能村竹田と豊後南画：江戸後期～明治期																
12	渡辺長男と朝倉文夫：明治～昭和期																
13	福田平八郎と大分の日本画：大正～昭和期																
14	石橋と鏝絵：「美術」と地域性																
15	近現代美術の諸相：「美術(アート)」の拡大																
グループ	A:知識の定着・確認	グループでの話し合い。展覧会見学・街歩き等の教室外での活動。それをふまえた小レポート					工夫	その他の									
グループ	B:意見の表現・交換																
グループ	C:応用志向																
グループ	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	前時の内容の復習、事前配付資料等による予習など(8h)。															
時間外学習の内容と時間の目安	事後	大分県内はもとより、さまざまな地域の美術について関心を持ち、関連する書籍・美術全集・展覧会図録等で学習するほか、各地の歴史的な文化財や美術館などに積極的に出かけて、美術作品を実際に鑑賞する(8h)。															
教科書	教科書は指定しない。授業中に配布するプリント等を使用する。																
参考書	授業中に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業中の課題	50%															
	期末試験もしくはレポート	50%															
(ただし出席および課題等の条件を満たした者のみ試験を受けることができる)																	
注意事項	1～2回、それぞれ課題を出して、授業時間外に各自で大分市美術館や大分県立美術館等での展覧会や県内の文化財などを見学してもらう予定です。原則としていかなる理由があっても、それができなかったときは成績を不可とします。ただしコロナ禍が収束しない場合は、代替の課題等に変更します。																
備考	美術や歴史について関心を持つ学生の受講を勧める。「注意事項」にあるとおり、授業時間外の課題があるので注意すること。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
AA45N126	グリーンサステナブルケミストリー(Green Sustainable Chemistry)					全学共通科目 自然・科学	対面									
*大分を創る科目																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水2	氏名 井上 高教(理工) E-mail tinoue@oita-u.ac.jp 内線 09097962778										
授業の概要	地球温暖化・気候変動・海洋プラスチック問題・水問題などの地球環境を取り巻く問題について、現状を把握し、原因を深く考え、対策を提案する。世界全体・日本とその周辺・大分県の現状を説明し、その原因を科学的・化学的に探究する。さらに、SDGs(持続可能な開発目標)のために、何が出来るのか?現在実施されている取り組みなどを調査して、精査して、次なる方策を議論する。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	地球温暖化・気候変動などの原因を科学的に理解できる															
目標2	地域・日本全体・世界全体における現状を把握し、未来を想定できる															
目標3	対策案・提言案を考えつることができる															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンスと講義内容の概略と目的:地球温暖化・気候変動・海洋プラスチック問題・水問題などの項目について、定義・問題点・関係性などを概略する。																
2 おおいたうつくし作戦(大分県うつくし作戦推進課):おおいたうつくし作戦と、大分県環境基本計画の概略を説明する。																
3 おおいたの自然を守る取組(大分県自然保護推進室):大分の自然(地質・植物・動物)概説。温泉資源の保護と活用。生物多様性保全の取組と外来生物対策																
4 SDGsと環境																
5 自然と地域資源を守り活用する取組(大分県自然保護推進室):自然公園の保護と適正利用の推進																
6 再生可能エネルギー発電事業の環境アセスメント(環境保全課・森山主査):より環境に配慮した事業とする環境アセスメント制度を解説し、議論する。																
7 大分県水道ビジョン(環境保全課・金並主幹(総括))具体的な目標や実現方策を示した大分県水道ビジョンを解説し、議論する。																
8 瀬戸内海保全の取組(環境保全課・橋本補佐(総括)):「豊かな瀬戸内海」を目指すための取組を共に考えいく。																
9 大分県のおもてなしの現状について(大分県循環社会推進課):プラスチック廃棄物の排出・処理の状況を含む																
10 大分県のプラスチック廃棄物対策について(大分県循環社会推進課):海洋プラ対策を中心に																
11 気候変動対策(大分県うつくし作戦推進課):温暖化の現状と対策(緩和策・適応策)																
12 市民活動による地球温暖化対策(地球温暖化防止活動推進員・加藤俊一):家庭や地域における地球温暖化対策																
13 環境教育の推進(環境教育アドバイザー・綿末しのぶ):多様な主体に対する環境教育の推進例 環境教育アドバイザーの活動紹介																
14 市民活動による環境保全:県内で環境保全活動を実践している活動家の内容紹介																
15 総括・今後の課題・提言案																
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	数々の自然科学現象の中から、“何が原因か?”を自ら見出し、その関連を証明する。その課題のためには、“どんな方策が有効か?”,自ら発案でき、その有効性を多くの人に説得できる。				工夫 その他	多くの専門家・大分県各課からの情報提供を頂きます。									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	課題について、事前に調べてくること。(4時間)														
	事後 学修	課題について、詳細に調査し、レポートにまとめる														
教科書	講義の中で資料を適宜紹介、もしくは、Moodleを経由して配布する															
参考書	講義の中で資料を適宜紹介															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業中のレポート	100%														
注意事項																
備考																
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA41G115	学習ボランティア入門(Introduction to Learning Volunteer)					全学共通科目 導入・転換	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水2	氏名 岡田 正彦(教マ) E-mail msokada@oita-u.ac.jp 内線 7647						
授業の概要	学習ボランティアとは、自らの学んだ成果を地域の人々の学習や福祉活動に活用する取り組みの事です。この授業では、ボランティアに関する基礎知識をふまえ、実際にボランティア活動を体験し、振り返りを行うことで、このようなボランティアの意義について学びます。ボランティア活動を行う場所は、病院、福祉施設、NPO、放課後児童クラブ、幼稚園、NPOなど、学校教育・社会教育・社会福祉の分野から選択できます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	学習ボランティアの心得と社会的意義を説明できる											
目標2	ボランティア活動を通しての自分自身の成長に気づき、活動の意義を説明できる											
目標3	今後のボランティア活動に関する自身の考え方を述べる事ができる											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション											
2	学習ボランティアの理念を知ろう											
3	学習ボランティアを行う意義を考えよう											
4	自分にとってのボランティアの意義を考えよう											
5	ボランティアを行う際の留意点について意見交換をしてみよう											
6	ボランティア活動計画を作ろう											
7	地域でのボランティア活動【活動1】 【活動1】と【活動2】を合わせて15時間以上行うこと											
8	地域でのボランティア活動【活動1】											
9	地域でのボランティア活動【活動1】											
10	ボランティア活動の途中経過をふりかえろう											
11	地域でのボランティア活動【活動2】											
12	地域でのボランティア活動【活動2】											
13	地域でのボランティア活動【活動2】											
14	ボランティア活動報告の整理をしよう											
15	ボランティア活動から学んだことを語り合おう											
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	グループディスカッション、省察のためのコメントレポート、演習、学習成果の報告会				工 夫 そ の 他 の	LMS (Moodle)					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	ボランティア先の情報収集を行う(2h)、ボランティア活動の計画を立てる(3h)。										
	事後学修	授業での活動の振り返り(3h)、ボランティア活動の振り返り(3h)、ボランティアの成果を報告するための準備を行う(5h)。										
教科書	特定の教科書は使用しない。適宜、資料を提示する。											
参考書	参考書は適宜紹介する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小レポート(学習ボランティアに向けての心構え)	10%										
	中間報告	20%										
	最終報告	30%										
	最終レポート	20%										
	ボランティア活動の記録	20%										
注意事項	活動先は2箇所以上選択すること。活動先によっては、交通費等の実費負担が生じる場合があります。遅刻や無断欠席には厳しく対応します。											
備考	受講定員20名											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA45N314		地生態学(Geocology) *大分を創る科目					全学共通科目 自然・科学	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	水3	氏名 小山拓志(教) E-mail ktakushi@oita-u.ac.jp 内線 7548										
<p>授業の概要</p> <p>近年、「山ガール」や中高年の登山ブームに伴って、山への関心が高まっている。その一方で、登山者過多による山の環境負荷が増大しており、自然景観や自然環境の保護・保全について問われ始めた。</p> <p>本講義の前半は、特に世界および日本の寒冷地、とりわけ「山」に焦点をあて、寒冷地特有の自然景観を構成している地因子(地形・土壌・地質・水・気候・植物など)の地生態学的な相互関係について学んでいく。後半は同じ寒冷地である極域(南極)の自然環境について、講義者が実際に撮影した写真や動画を観ながら理解を深めていく。また、本講義の全体を通じて、山岳地の自然保護や保全について考察する。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 地因子の地生態学的相互関係を説明できる																
目標2 高山帯および寒冷地域の自然環境を説明できる																
目標3 自然景観や自然環境の保護・保全に対する考えを述べる事ができる																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション 地生態学とは何か(ガイダンス含む)																
2 山地の地形 山とは何か																
3 山地の地形 付加体とは何か																
4 山地の地形 火山とは何か																
5 山の不思議な景観を「地形」から読み解く																
6 山の不思議な景観を「表層物質」から読み解く																
7 山の不思議な景観を「地質」から読み解く																
8 山の不思議な景観を「気候」・「雪」から読み解く																
9 山の不思議な景観を「気候」・「雪」から読み解く																
10 山の不思議な景観を「植生」から読み解く																
11 日本の山の景観を読む-グループワーク																
12 日本の山の景観を読む-グループワーク																
13 北極・南極の探検・観測史と成果-人はなぜ極地を目指すのか																
14 北極・南極の自然環境-気候と地形																
15 北極・南極の自然環境-極地研究の最前線																
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	地形図への色塗りなどの作業を通じて、理解を深めてもらう。講義の最後に、振り返りや質問等のコメントを記入してもらう。グループワークをおこなう。				工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	日本の山について興味関心を持ち、事前に好きな山の特徴(形成史、地形、地質、植生、気候、人為的攪乱など)について調べてみる(5h)														
	事後学修	講義終了時に、まとめの小テストを行うことがある(10分)。質問は、コミュニケーションペーパーおよび研究室で対応する(1h)。講義のノートをもとめる(3h)。														
教科書	使用しない。下記の参考書を基に作成したプリントを配布する。講義はパワーポイントで行う。															
参考書	横山秀司 編(2002)『景観の分析と保護のための地生態学入門』。古今書院。横山秀司 著(1995)『景観生態学』。古今書院。(いずれも購入する必要はない)。その他は、随時紹介する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験	60%														
	小テスト	20%														
	意欲・態度	20%														
受講態度によって意欲・態度は大幅に減点する場合がある。																
注意事項	4回欠席した者は受験資格なしとする。 携帯電話の使用は一切禁止する。 講義中に行う作業の都合上、最大50名。															
備考	馴染みのない分野であるため、幅広い知識の習得を望んでいる意欲的な学生の受講を希望する。この講義を通じて、自然景観の成り立ちや日本の山の美しさに興味を持ってほしい。もちろん、山に登ったことがない学生、寒い地域に馴染みのない学生の受講も歓迎である。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA42S328	地域における仕事と社会(Work and Social in Local Areas)					全学共通科目 福祉・地域	対面								
*大分を創る科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1・2・3・4	経・理工	前期	木2	氏名 石井まこと(経) E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698									
授業の概要	グローバル化が進んでも人々の生活基盤は地域にあります。そうした地域を支える仕事と地域社会の関係を講義していきます。本講義では雇用・キャリア形成・家族・ジェンダー・教育といった多面的な角度から分析していきます。特に若者が次世代に向けて地域・地方を基盤に活躍するための条件について、各方面の学術的な知見を整理したうえで、課題と解決策を提示します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地域を豊かにするための方策について考えることができる。														
目標2	地方圏特有の労働問題を理解することができる。														
目標3	労働問題全般の基礎知識が身につく。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	雇用社会と産業発展														
3	仕事と日本人														
4	事社会の変化														
5	ホワイトカラーの労働生産性向上														
6	男女の仕事														
7	「地方消滅」のなかの若者														
8	労働市場と若者の仕事														
9	地方における若者のキャリア形成														
10	地方の若者とワークルール														
11	家族と若者														
12	ジェンダーでみる若者の仕事・結婚														
13	学校社会の変容と若者														
14	地方の若者と新たな包摂政策														
15	総括														
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業のはじめに皆さんの知識を確認し、回答状況をみながら講義を進めます。				工夫	講義の終わりに再度知識が定着したか確認していきます。								
	B:意見の表現・交換					その									
	C:応用志向					他									
	D:知識の活用・創造					の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教科書および参考文献を事前に読み、考えられる課題をまとめておく(各回1.5時間×15回=22.5時間)。													
	事後	事前の学習および授業を聞いて考えたことについて振り返りを行う(各回1.5時間×15回=22.5時間)。													
教科書	石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方に生きる若者たち』旬報社。														
参考書	講義において適宜紹介していきます。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	授業レポート	30%													
	期末テスト	70%													
注意事項	講義は教科書とレジュメ(毎回配布)を使って進めていきます。														
備考	質問は講義時間にも適宜受け付けます。また、進行の確認のために、質問もしていきます。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	財団法人労働科学研究所（限大原記念労働科学研究所）にて1995年～98年に研究員として、労働生活調査を企画・実施・報告業務に従事。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K141E404	社会政策(Social Policy)					主専門科目 その他	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1,2,3,4	経済	前期	金・1	氏名 石井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。											
目標2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。											
目標3	社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	社会政策とはどういう学問か											
2	社会政策の方法(1) - 経済学的手法											
3	社会政策の方法(2) - 政治学的手法											
4	社会政策の方法(3) - 社会学的手法											
5	社会政策の対象 - 仕事と生活の関係											
6	社会政策の研究史(1) - 欧米編											
7	社会政策の研究史(2) - 日本編											
8	社会政策の研究史(3) - 東アジア編											
9	賃金・労働時間に関わる争点											
10	雇用問題に関わる争点											
11	労使関係・労働組合に関わる争点											
12	社会保障に関わる争点(1) - 年金・医療・介護											
13	社会保障に関わる争点(2) - 福祉・公的扶助											
14	ジェンダーに関わる争点											
15	総括											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ラ フ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えています				工 夫 そ の 他 の	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間:1回1.5時間)。										
	事後学修	レポート課題の作成(22.5時間:1回1.5時間)。										
教科書	特に指定しません。レジュメを講義で配布します。											
参考書	石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方で生きる若者たち』旬報社。 石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編(2010)『現代労働問題分析 - 労働社会未来を拓くために -』法律文化社。 平澤克彦・中村艶子編(2021)『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業レポート	30%										
	期末テスト	70%										
注意事項	予習が可能なように事前問題を毎回用意します。また、質問時間を適宜とりますので、遠慮なく質問してください。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K343R423		労働関係法 (Labor Law I)					主専門科目 その他	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3,4	経	前期	金・3	氏名 小山 敬晴 E-mail taukappa09@oita-u.ac.jp 内線 7692												
授業の概要	本講義は、「労働関係法II」の講義と併せて日本の労働法の全体像を理解できるように行います。「労働関係法I」では、主に労働基準法、労働契約法の基礎的内容と判例法理を理解し、職場で本来守られるべき法律上のルールを習得することを目指します。それだけでなく、現場で実際に生じている労働問題と、労働関係法の限界点を知り、問題への解決方法を考える力を養うことを目指します。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 労働法という法分野の存在意義を理解すること。																		
目標2 労働基準法、労働契約法の条文内容と判例法理を理解すること。																		
目標3 法学的文章を記述できるようになること。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 労働法の歴史																		
2 労働法とはなにか																		
3 労働者とは誰か																		
4 使用者とは誰か																		
5 労働法とマルチチュード																		
6 労働契約の成立																		
7 労働条件決定のプロセス																		
8 労働者、使用者の権利義務																		
9 ハラスメント・内部告発																		
10 労働契約内容の個別の変更																		
11 労働契約内容の集団的変更：労働協約																		
12 労働契約内容の集団的変更2																		
13 労働契約の終了：辞職・解雇・合意解約																		
14 労働契約の終了：解雇規制																		
15 労働契約の当事者の変動・拡張																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	法律内容の知識定着を図るために、単元ごとに課題を出し、授業内で発言を求める。					工 夫 そ の 他 の											
	B:意見の表現・交換	また知識定着の確認のため、小テストを実施する。																
ニテ	C:応用志向																	
グ	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	次の時限で扱う教科書の該当箇所の読了：30時間																
	事後	復習：15時間																
教科書	小宮文人・本久洋一編著『労働法の基本〔第2版〕』（法律文化社、2021年）、および有斐閣または三省堂の最新の小型の六法（判例のついていないもの）を持参すること。 法学六法（信山社）は労働関係法規が収録されておらず、使いものにならない。																	
参考書	授業内で適宜指示する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	期末試験	100%																
注意事項																		
備考	労働法の全体像の理解のために、労働関係法IIも併せて受講すること。																	
リンク																		
	URL																	